

都道府県・指定都市番号	22	都道府県・指定都市名	静岡県	研究課題番号・校種名	3(5)幼稚園・保育所・小学校
				領域名	校種間連携
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (5) 校種間の連携による教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (園児・児童・生徒数)	がっこうほうじんすみよしがくえん ひばり ようちえん (188 人) がっこうほうじんかわしりがくえん ちどり ようちえん (132 人) よしだちやうりつ ほいくえん (86 人) よしだちやうりつ ほいくえん (147 人) よしだちやうりつ ほいくえん (98 人) よしだちやうりつ ほいくえん (155 人) よしだちやうりつ ほったつしえんじぎやうしょ (21 人) よしだちやうりつすみよしがっこう (527 人) よしだちやうりつちゆうおうしやうがっこう (725 人) よしだちやうりつじきやうしやうがっこう (444 人)			学校・地域の特色及び実態等 ・核家族化や共働き，ひとり親などの家庭の増加に伴う家庭や地域の教育力の低下 ・小学校入学時における学校生活への不適応等，「小1プロブレム」の常態化 ・子供の発達と学びの連続性を踏まえた教育実践を展開するための幼児教育カリキュラムの作成・実践 ・私立幼稚園，公立保育所等と公立小学校との連携のスタート	
所在地（電話番号）	【幼稚園・小学校】 吉田町教育委員会学校教育課 〒421-0395 静岡県榛原郡吉田町住吉 87 番地 (0548-33-2151) 【保育所等】 吉田町こども未来課 〒421-0395 静岡県榛原郡吉田町住吉 87 番地 (0548-33-2153)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.town.yoshida.shizuoka.jp/3046.htm				
研究のキーワード	○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ○発達過程における育てたい子供の姿 ○子供の発達と学びの連続性 ○吉田町幼児教育カリキュラム ○吉田町スタートカリキュラム				
研究結果のポイント	○吉田町幼児教育カリキュラム，吉田町スタートカリキュラムを共有し実践したことにより，指導者の相互理解や連動した取組の推進など，校種間連携の強化が図られた。 ○「発達過程における育てたい子供の姿」を踏まえた教育計画の見直しにより，子供の実態把握を基にした教育活動や個に応じた支援が図られるなど，指導者の意識改革とともに活動や授業の改善が進んだ。 ○吉田町スタートカリキュラムの実践により，入学した子供達がスムーズに学校生活へ適応していくことができた。また，入学前からの保護者の十分な理解や全校体制での取組が，子供達の安心・成長・自立に相乗効果をもたらした。 ○幼保小の関係者が吉田町スタートカリキュラムの内容や構成について検討を行うことにより，吉田町幼児教育カリキュラムとの関連性を把握するとともに指導のつながりを確認し合うことができた。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続を目指して～吉田町幼児教育カリキュラムに基づいた教育の実践と検証，幼稚園・保育所等・小学校が連携を生かした吉田町スタートカリキュラムの作成～

(2) 研究主題設定の理由

近年，吉田町では核家族化や共働き，ひとり親などの家庭の増加に伴い，家庭や地域の教育力が低下している。教育現場では，小学校入学時において，学校生活にうまく適応できず，集団行動がとれない，授業中に座ってられない，教師の話が聞けないなどといった，いわゆる「小1プロブレム」といわれる状況が起きている。また，幼稚園・保育所等・小学校（以下，「幼保小」とする）の連携は十分ではなく，入学時の学級編成のための情報交換や幼児・児童による学校見学や遊び，イベントを中心とした交流に止まっている。

そこで，幼保小の教職員が，育てたい子供の姿を共有し，その実現に向けて，子供の発達と学びの連続性を踏まえた教育実践を展開する必要があると考え，平成 28 年度に「吉田町幼児教育カリキュラム」を作成した。

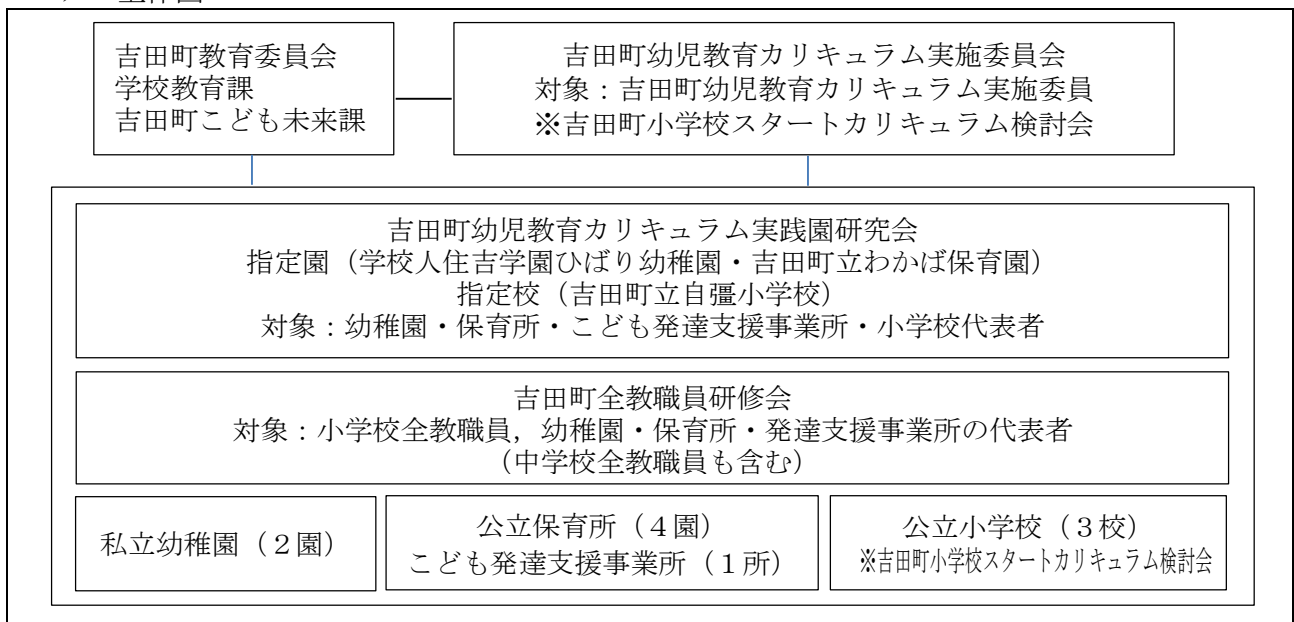
今後、共通したカリキュラムを基に、育てたい子供の姿を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続に資する教育課程や指導方法の在り方について探り、実践していきたい。

【吉田町幼児教育カリキュラム】

吉田町教育大綱における切れ目のない効果的な「つながりのある教育」の推進に向け、私立幼稚園、公立保育園、公立小学校の関係者で構成する「吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会」において作成した、吉田町内全ての幼児教育を行う施設、小学校に共通するカリキュラムである。作成の過程では、幼稚園教諭、保育士、小学校教員等（以下、「指導者」とする）の代表者が3歳時から1年生までの実践を持ち寄り、各校種保護者代表者と共に幼稚園教育要領等に示された「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、実際の子供の姿を抽出、検討するとともに、発達に即して整理した。その結果、3歳時から5歳児までの発達の過程を学年等の区分に拠らずに3ステップに分け、具体的な幼児の姿を示した「発達過程における育てたい子供の姿」（以下、「育てたい子供の姿」とする）及び指導の留意点（試案）としてまとめ、指導者が共有するとともに、子供一人一人の学びを的確に把握することを目指している。

(3) 研究体制

ア 全体図



イ 校種間連携協議会の構成員・人数

吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会 (14人)	
学識経験者 (1人)	千葉大学教育学部教授 松寄洋子氏 (委員長 1人)
私立幼稚園関係者 (3人)	園長代表 (1人)・教諭 (2人)
公立保育所関係者 (6人)	園長代表 (1人)・保育士 (5人)
公立小学校関係者 (4人)	校長代表 (副委員長 1人)・教諭 (3人) ※吉田町小学校スタートカリキュラム検討会

(4) 2年間の主な取組

平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> 「吉田町幼児教育講演会」における幼児教育に関する国の動向や町の方向性の周知 「吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会」におけるカリキュラムの実施状況確認と修正 「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」, 「吉田町全教職員研修会」における公開保育や公開授業の参観時の子供の姿からの適切な指導の在り方についての検討 「吉田町幼保・小連絡会」や子供の交流における情報交換や学級編成の検討 「吉田町幼児教育カリキュラム (教師・保育士用指導書)」作成 「吉田町小学校スタートカリキュラム検討会」における「吉田町幼児教育カリキュラム」及び幼保小連携を生かした「吉田町スタートカリキュラム」(試行版)の作成
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> 「吉田町幼児教育カリキュラム (教師・保育士用指導書)」に基づいた教育実践及び分析 「吉田町スタートカリキュラム」(試行版)に基づいた教育実践及び分析 実施委員会における「吉田町スタートカリキュラム」の検討及び修正 (完成版の作成) 実践園研究会の継続的な開催と各施設における職員研修の充実

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 吉田町幼児教育カリキュラム(以下、幼児教育カリキュラム)に基づいた実践及び分析
- イ 吉田町スタートカリキュラム(以下、スタートカリキュラム)に基づいた実践及び分析
- ウ 実施委員会及び実践園研究会の開催等による連携の推進

(2) 具体的な研究活動

ア 幼児教育カリキュラムに基づいた実践及び分析

- (ア) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した教育実践の充実
各施設において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、教育等の実践（以下、活動）の構想を立てたり、指導の留意点を考えたりして指導案の作成を行った。
- (イ) 「発達段階における育てたい子供の姿」を基にした子供の見取りの充実
活動の前に、「発達段階における育てたい子供の姿」を基にして子供の実態を把握したり、個に応じた支援について検討を行ったりした。
- (ウ) 子供が主体性を発揮して活動を展開できるような子供の立場に立った保育の充実
自分で選び、遊べる環境や提供する玩具や素材等の見直しを行うとともに活動においては個々の発達を理解した声掛けを意識した。また、子供が経験してきた遊びやその展開・経過及びそれに伴う環境構成等の共有、引き継ぎなどを行った。
- (エ) 各施設における「吉田町幼児教育カリキュラム（教師・保育士用指導書）」を活用した教育実践のまとめ
幼児教育カリキュラムを基に幼稚園や保育所等で実践した活動や授業について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「発達段階における育てたい子供の姿」を踏まえてまとめを行っている。また、各施設において、共通したカリキュラムを基に、幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続の在り方について、追究している。

イ スタートカリキュラムに基づいた実践及び分析

- (ア) スタートカリキュラムの構成
スタートカリキュラムは、子供達が幼児教育で身に付けた力を十分に発揮しながら新しい学校生活に慣れていくために3つの時間で構成されている。具体的に、「なかよしタイム」は初めての学校生活での緊張や不安をほぐしたり体を動かしながら友達との仲を深めたりする時間、「わくわくタイム」は生活科として扱い合科的・関連的な授業を行い学校生活に慣れる時間、「ぐんぐんタイム」は主に教科を扱い学習への意欲を高めたり、学力をつけたりする時間としている。
- (イ) 幼保小の連携を意識した授業改善等
「なかよしタイム」では、友達との交流として「ペアづくりやグループづくり」、「友達とのサイン交換」などの仲間づくりに加え、歌や運動など様々な活動を取り入れた。「わくわくタイム」では、生活科の「学校探検」で数探しを取り入れ、算数の学習に繋がったり、生活科で見つけた植物や虫などを題材にして、図工、国語に繋がったりした。「ぐんぐんタイム」では、まず、各教科の学習の仕方や活動の流れがわかるように、拡大文字や図、写真を用いてわかりやすく示し、説明を行った。また、平仮名を習う際に、友達の名前の中にある字や身近にある物の字を示したりするなど、子供達が興味を持てるよう工夫した。
また、学年合同の音楽科や生活科、体育科の授業、朝の支度や掃除の仕方の指導などにおける異学年との活動、教職員へのインタビューなど子供達にとって身近な人とのかかわりを充実させる機会を設定した。
さらに、掃除や給食の仕方については、出身園での方法を聞きながら、よりよい方法やきまりなどを一緒に考える活動を行ったり、朝の支度や身の回りの整理整頓などは、幼児教育の延長上と捉え、培ってきたものを十分に活かした指導を行ったりするなど、幼児教育での育ちを活かしたり安心して自ら学びを広げたりできる活動や環境の設定に努めた。
- (ウ) 評価と改善
4月末（保護者・児童）と7月末（児童）にアンケートを実施し、スタートカリキュラムの実施に伴う児童の成長や保護者の思いを把握した。アンケートの内容は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目と連動させ、アンケート調査結果を基に、スタートカリキュラムを改善したり、その後の児童への指導に活かしたりしている。4月末に実施したアンケートでは、「①学校に元気よく通っていますか。」「③小学校の友達と仲良くできていますか。」「④学校のきまりを守ろうとしていますか。」「⑤学校の教職員、協力してくださる地域の人など身近な人に慣れましたか。」の項目で90%以上の児童及び保護者が肯定的に捉えることができていた。
吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会や各校での幼保小連絡会での授業参観では、抽出児を中心に参観し、児童の表れをもとにスタートカリキュラムの構想の見直しや具体的な指導、支援の改善に活かしている。
- (エ) その他
保護者への啓発としては、スタートカリキュラムについては、前年度の小学校一日体験入学で説明を行ったり、子供達の取組の様子を学年だよりで伝達したり、懇談会において成果や課題について説明したりした。また、教職員の理解を深めるために、新学習指導要領に関する校内研修にてスタートカリキュラムについて説明を行ったり、スタートカリキュラムに関する学年だよりを全教職員に随時配布したりした。
- ウ 実施委員会及び実践園研究会の開催等による連携の推進

- (ア) 幼保の視点を意識したスタートカリキュラムの作成
 実施委員会において、スタートカリキュラムの内容や構成について、幼稚園、保育所等を含めた委員で検討を行うことで、相互の理解を深めるとともに加除修正が図られた。
- (イ) 公開保育、公開授業の指導案の作成及び参観者の意識の共有
 平成 29・30 年度に年 2 回開催した実践園研究会では、吉田町の指定園校における公開保育や公開授業の実施と実施委員会委員の参観を核とした研修を行った。指導者は、幼児教育カリキュラムやスタートカリキュラムを基に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「発達段階における育てたい子供の姿」の視点を意識して指導案の作成を行った。実施委員会では、事前に指導者が指導内容や構想、計画などを委員全員に説明し、意見交換を行い、意識の共有を図った。
- (ウ) 公開保育、公開授業の参観を通じた事後研修会の充実
 事後研修会では、公開保育、公開授業における指導者の手立ての有効性について、子供の表れを基に協議を行い、成果や課題を明確にした。特に、公開授業では、抽出児を決めて、子供の変容について幼保小の指導者が意見交換を行った。また、指導者の手立てや留意点については、松寄教授から、新学習指導要領、新幼稚園教育要領や新保育所保育指針で求めている教育や保育について直接指導や助言をいただいた。さらに、「町内他施設的环境や指導について知る」という視点からも研修の充実が図られている。
- (エ) 教育研究協議会の充実
 参加者の活発な意見交換が行われ、各施設における研究実践の進捗状況を相互に確認し合うことができた。また、教育課程調査官からは、公開保育や公開授業に止まらず、指定事業としての研究主題に基づき、その取組の状況から、研究の方向性並びに成果と課題などを明確に捉えることができるよう、直接指導や助言を得た。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 幼児教育カリキュラム、スタートカリキュラムを共有した校種間連携の強化
 幼保小の連携のための組織をつくり、幼児教育カリキュラム、スタートカリキュラムを作成し、それぞれに基づいて実践した結果、指導者の異校種及び他園校への相互理解が進むとともに、連動した取組が強化された。
- 「発達段階における育てたい子供の姿」を踏まえた各施設における教育活動の充実
 各施設では、「発達過程における育てたい子供の姿」を踏まえた教育計画の見直しにより、子供の実態把握を基にした教育活動や個に応じた支援が図られるなど、指導者の意識改革とともに活動や授業の改善が進んだ。特に、遊びに関しては、玩具や素材等を含めた環境の見直しや子供の経験、展開及び環境構成等の共有、引き継ぎを行ったことで、子供達が自分の思いを伝え合ったり、試行錯誤しながら友達と一緒に遊びを発展させる楽しさを感じたり、様々な物事に興味を持ち、発見したり工夫したりする姿が見られるようになってきた。
- スタートカリキュラム作成による研修の充実
 実施委員がスタートカリキュラムの内容や構成について検討を行うことで、幼児教育カリキュラムとの関連性を把握するとともに指導のつながりを確認し合うことができた。また、幼児教育と小学校教育について理解を深めるとともに、その効果的な接続を追究するためのツールとして研修を深めることができている。
- スタートカリキュラムの実践による効果
 子供達が幼児教育で身に付けた力を十分に発揮しながら新しい学校生活に慣れていくために「なかよしタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」の3つの時間で構成されたスタートカリキュラムの実践により、友達と仲良く元気に生活できたり、体験活動等において主体的な取組が見られたり、その主体性が他教科の学習にも表れたりするなど、入学した子供達がスムーズに学校生活へ適応していくことができた。また、入学前からの保護者の十分な理解や全校体制での取組が、子供達の安心・成長・自立に相乗効果をもたらしていると思われる。
- 指導者の意識改革と資質向上を目指した研修体制の充実
 本研究の取組により、研究実践への指導者の意識の高まりがあることから、継続的・計画的な研究会や実施委員会の開催とともに各園校からの参加者を拡張する必要がある。また、幼児教育の充実や幼保小の連携を図っている先進地区への視察等を拡張することで、吉田町内の指導者の資質向上を図っていききたい。

4 今後の取組

- (1) 「吉田町幼児教育カリキュラム (概要版)」の改訂及び配布
- (2) 幼児教育カリキュラムやスタートカリキュラムに基づいた教育実践について、分析結果を反映させた指導計画の作成
- (3) 定期的な実施委員会の開催による幼保小の情報の交換及び共有
- (4) 実践園研究会の継続的な開催と各施設における職員研修の充実